

緑内障早期発見・治療のために



●緑内障とは

日本人の40歳以上の20人に1人が持っているといわれる病気であり、現在日本の失明率第1位(28.6%)になっている病気でもあります。『緑』内障という名前ですが、見え方が緑色になるわけではありません。眼圧と呼ばれる眼の固さの上昇に伴い眼と脳をつないでいる視神経に異常が起こり、目で見た情報が脳にうまく伝わらず、画像が上手に認識できなくなる病気のことを指します。

●緑内障の症状

具体的な症状は視野が狭くなる視野狭窄、視野狭窄が視野の中心に及ぶと視力低下を及ぼします。しかし、日常生活では両眼を使っているものを見ているため、片眼の視野が障害されてもなかなか気づきにくいです。また、目の充血や痛みなども無く、自覚症状に気付くことはほとんど無く、治療の開始が遅れてしまうことが多いです。

●緑内障の検査

自覚症状が無いことが多いため、病状を把握するために検査を行うことが大切です。

① 眼圧検査

眼の表面に空気やセンサーを当てて眼圧を測定します。一般に眼圧の正常値は10-21mmHgといわれていますが、21mmHg以下なら問題ないという訳では無いです。日本人の緑内障と診断された70%近くの方は眼圧が21mmHg以下なのに視神経が異常を起こしてしまう正常眼圧緑内障というタイプの緑内障のため、他の検査と併せて眼の変化をきちんと捉えることが重要になります。

② 眼底検査

視神経の異常を直接レンズや写真で確認する検査になります。視野障害が現れる前でも視神経の異常を直接確認できることがあるため、早期発見に非常に役に立ちます。

③ 視野検査

自覚症状を確かめる検査です。視野障害の程度を客観的に評価することができ、視野障害の程度・進行を評価することができます。(*当院では予約制で視野検査を行っています。)

●緑内障の治療

緑内障で一度異常が起こった視神経は回復することは無く、その進行を遅らせるしか方法がありません。そのため、緑内障を早期に発見して早期に治療を開始することが大切になります。治療は眼圧を下げるために目薬をすることがほとんどです。それでも効果が不十分な場合にはレーザー治療や手術などを行う場合もあります。

●緑内障早期発見・治療のために

① 緑内障治療の鍵は早期発見！

緑内障になりやすい人として、緑内障の家族歴・近視が強い・眼圧が高い・高齢者・高血圧・片頭痛がある等が報告されています。この項目に当てはまる方・40歳以上で眼底検査を受けたことがない方は一度眼底検査を受けてみてはいかがでしょうか。

② 治療の継続性が大事！

緑内障と診断された場合には、きちんと治療を継続しましょう。自覚症状がないからと治療を放置してしまうと視野障害が取り返しのつかないことになってしまう場合があります。

③ 治療の内容を守りましょう！

緑内障の目薬はたくさん使えばよくなるという物ではありません。使い方を間違えると副作用が出る場合もあります。きちんと用法用量を守って使いましょう。

眼科 医長 中澤 和樹

お薬の管理方法について

心臓病や高血圧、糖尿病など多くの病気をお持ちの方は、お薬の数が多くなり、用法も複雑化し、1日に何回もお薬を飲んでいる方が多くいらっしゃいます。そのような方は、重要なお薬を飲んでいるので、お薬の管理状況が悪くなると、病状の悪化や副作用の発生に繋がります。

羽咋病院では、入院中に自己管理をされる患者さんには、用法ごとに区画が分かれた与薬箱やお薬カレンダーの使用をご提案しています。

ご自宅での代用案としては、要らない箱を使って自分だけの与薬箱を作ってみたり、普段使っているカレンダーに1日分の薬を貼り付けてみることもおすすめです。

お薬カレンダーは、調剤薬局さんで販売しているところもありますし、羽咋病院の売店でも販売していますので、お薬の管理でお悩みの方はご購入いただければ、お悩みが解消されるかもしれません。



薬剤師 中多 凌

総務大臣表彰 受賞

昨年の9月に「令和3年度自治体立優良病院総務大臣表彰」を受賞いたしました。この表彰は、経営の健全性が確保されていること、地域医療の確保に重要な役割を果たしていることが評価されたものです。多くの諸先輩方のご尽力により長年に渡り地域の中核病院として健全経営を続けてきた本院の取組が評価されたものです。

総務課長 村井 光一



いしかわ診療情報共有ネットワーク(ID-Link)のご紹介

いしかわ診療情報共有ネットワークとは、病院や診療所などの施設間で患者さんの処方内容や画像・検査結果などの診療情報を共有する仕組みのことです。共有するためには患者さんへの説明と同意が必要となります。利用による本人費用負担はありません。

このネットワークを利用することにより、施設間の連携がスムーズになるため転院や入院、通院において切れ目のない質の高い医療を受けることができます。

平成26年から令和3年12月末時点で当院では430件利用されています。



医療サービス推進室
西井 寿文

MRI装置更新のお知らせ

MRI検査では強い磁石と電波を用いて体内を画像化します。検査時間は比較的長く(20～60分程度)検査中は大きな音がします。

新しい装置では以前に比べ画像の向上はもちろんのこと、検査時間は約20%程度短くなり、また、騒音対策としてこれまで一部の検査では使用できなかったヘッドホンが全例使用可能になりました。患者さんにはより良質で負担の少ない検査を受けていただけるのではないかと考えています。

放射線科 副技師長
皆見 武



感謝の言葉

- ・食事の味付けも良く、バランスも良く、大変美味しかったです。
- ・特に看護助手さんの丁寧な対応、気遣いに感謝します。
- ・薬剤師の方も一つ一つ説明して下さり事務の方は書類対応しながらもおだやかに心づかいのある言葉がけしていただきましたすかりました。
- ・手術の時、手を握ってくれた看護師さん、ありがとう。
- ・構造が窓側でないベッドにも、“外”が見える設計になっていたので大変良いことだと感謝しました。



地域出前講座報告

令和3年11月18日、市内の保育施設を対象に、新型コロナウイルス感染症対策の出前講座を実施しました。講師は院内からパソコンを通じて講義を行い、各保育施設はオンラインで受講しました。施設からは、検査が陰性だった場合の対応など質問があり、今後の感染対策に役立ててもらえると実感しました。

医療サービス推進室 社会福祉士
井上 麻有子



地域出前講座のご案内

当院には下記のようなチームが日々活動しています。みなさんの集まりに役立つお話しができればと思います。お気軽にご相談ください。(リーダーの氏名)

連絡先

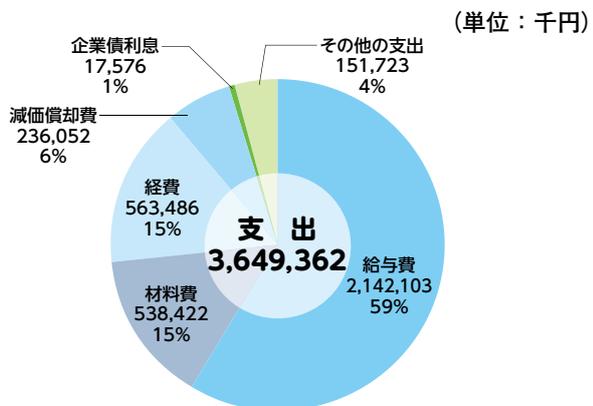
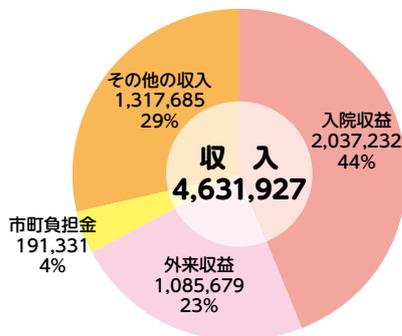
医療サービス推進室 山中
電話 0767-22-1264 (直通)

感染対策について	北 信代
栄養や口腔の清潔について	三宅 元子
スキンケアについて	嵐 通子
呼吸について	寺谷 美希子
認知症の方や高齢者の方への対応	四道 昭子
糖尿病について	藤田 加奈
緩和ケアと人生の最終プランについて	岡部 明代
急変対応について	森本 ゆかり

令和2年度決算のお知らせ

令和2年度病院事業の決算について、ご報告申し上げます。

収支状況



当年度純利益 982,565 千円

利用状況

区分	年延患者数	1日平均患者数	患者1人1日当たり収入	病床利用率
入院	47,123人	129.1人	43,232円	74.2%
外来	100,023人	376.0人	10,854円	

ふるさと自慢

私の故郷は、本州最北端に位置する青森県です。太平洋、津軽海峡、日本海に囲まれ、世界遺産の白神山

地や、八甲田山、十和田湖、奥入瀬渓流などあり大自然が広がっています。

私の一番のお勧めは、ねぶた祭りです。巨大なねぶたが大通りを練り歩き、踊り子の跳人（ハネト）たちと繰り広げる大迫力は見事です。是非、機会がありましたら、皆さん遊びに来てくださいね。

診療支援室 医師事務作業補助員
天田 理恵



家族介護者教室のご案内

日時 令和4年3月11日(金)
14:00～14:45

場所 公立羽咋病院 第1会議室

テーマ 高齢者の食事と栄養

講師 公立羽咋病院 管理栄養士
因幡 紘奈

参加方法は①羽咋病院へ来院する

② ZOOM で視聴する

のいずれかを選択できます。ZOOMのID等は、参加申し込みされた時にお伝えします。

申し込み方法

電話 0767-22-1264

医療サービス推進室 渡・井上

※感染拡大などの状況に応じてZOOM配信のみになる可能性があります。ご参加の前にご確認ください。



ありがとうございます

- ♥ なぎさ表紙題字・絵手紙 辻口 敦子様
- ♥ 写真 羽咋写真協会の皆様
- ♥ 絵画 羽咋美術協会の皆様
- ♥ 書字 羽咋市書道協会の皆様
- ♥ 俳句 宝達志水町若草会の皆様
- ♥ 園児の絵 羽咋白百合幼稚園



季節の 写真



雪が舞う寒い季節になりました。「冬」の語源には諸説あります。「冷（ひゆ）」が転じて「ふゆ」。寒さが威力を「振るう（ふるう）」が転じて「ふゆ」。寒さに「震う（ふるう）」が転じて「ふゆ」といった説があります。さてどの説が正しいのでしょうか。

撮影・文：主任理学療法士

大西 公亮